

F-a-4 廃棄物削減への取り組み

(株)堀場製作所は2006年下期にゼロエミッションを達成して以降、その状態を維持してまいりましたが、2010年に再資源化できない古い設備の廃棄が発生、止むを得ず埋立て処分したことから、当社設定のゼロエミッション要件を満たすことができませんでした。その後(2011年以降)は再びゼロエミッション状態を回復・維持しています。

廃棄物発生量は(株)堀場製作所単体で、生産量の増加に伴い前年比約5%増加したことから、国内HORIBAグループ全体でも、約10t(約2%)前年より増加しました。

2013年は国内グループ全社でゼロエミッションを達成する計画です。

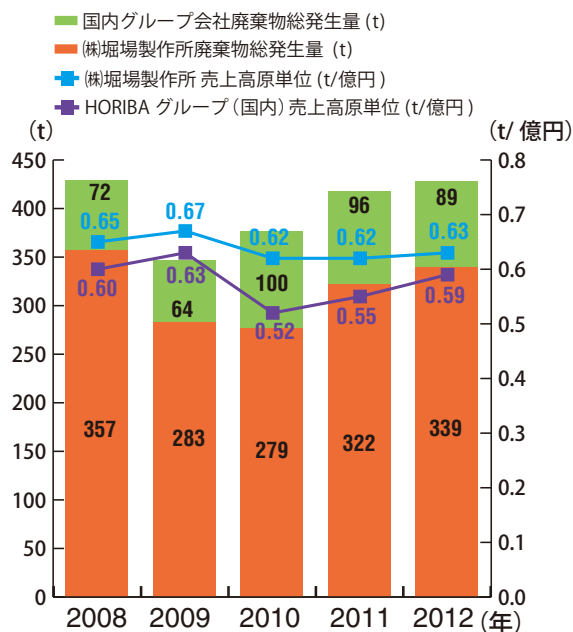
*HORIBAのゼロエミッションの定義

「廃棄物総発生量に対する最終埋立量の比率が1%以下であること。」

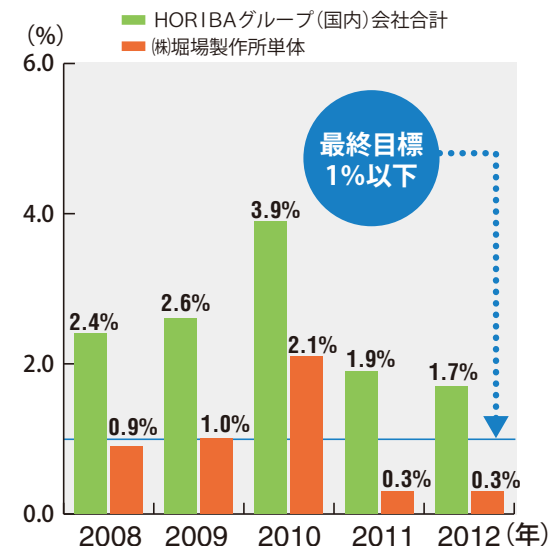
廃棄物総発生量：一旦不要となって各部門から排出された有価物、一般廃棄物、産業廃棄物を含めての総称

最終埋立量：リユース、リサイクル、中間処理(中和・無害化、焼却を含む)などを経て最終的に埋立処分される量

廃棄物総発生量と売上高原単位



最終埋立率推移



対象範囲

国内生産拠点

(株)堀場製作所 本社工場・びわこ工場、(株)堀場エステック本社工場・阿蘇工場、(株)堀場アドバンスドテクノ本社工場

国内グループ会社

(株)堀場エステック、(株)堀場アドバンスドテクノ

HORIBAグループ(国内)

(株)堀場製作所、(株)堀場エステック、(株)堀場アドバンスドテクノ